香教連新聞　第498号　2021年（令和３年）　４月10日発行　（発行の定日　毎月10日発行）　平成４年７月24日第３種郵便物認可

持続可能な学校教育を展開していくために！

今日の日本の学校教育は、高い意欲や能力をもった先生方の努力や取組によって支えられ、これまで大きな蓄積と高い成果を上げている。しかし、御承知のように、教員勤務実態調査から教師の長時間勤務の実態が明らかになっている。

文部科学省は、『子どものためであればどんな長時間勤務を良しとする』という働き方は、教師という職の崇高な使命感から生まれるものだが、その中で教師が疲弊していくのであれば、それは『子どものため』にはならない。また、意欲と能力のある人材が教師を志さなくなり、学校教育の水準の低下を招くおそれもある。」として、学校における働き方改革の必要性を明確化している。香川県においても、令和二年四月から、教職員の働き方改革プランで「時間外勤務が、原則として、月四十五時間、年間三六〇時間を超える教員をゼロにする。」と明示されている。

そこで香教連では、県知事や県議会、県教委等、県の各関係機関に、また全日本教職員連盟を通じて、内閣や国会、文部科学省等、国の各関係機関に、教職員定数の改善及び加配定数の拡充や教職員の働き方改革等について、積極的に要望してきた。

その結果、

○小学校全学年における三十五人以下学級の実施（二〇二一～二〇二五年度で段階的に）
○中学校一・二年生における三十五人以下学級の実施（三年生は少人数指導加配教員活用）
○小学校高学年における教科担任制導入（二〇二二年度から）
○スクールサポートスタッフや部活動指導員の配置拡充（新型コロナウイルス感染症対策を含む）
○一年単位の変形労働時間制が活用できる条例改正

等、さらなる学校教育の充実と教員の負担軽減が図られるための施策が、設定・改正された。

令和の日本型学校教育が円滑に、また持続可能に展開されるよう、未来を担う子どもたちのために、それを支える先生方のために、今後も香教連は、しっかりと役割を果たしていく。また、先生方の御理解と御協力、意識改革も重ねてお願いする。

香教連

香川県教職員連盟機関誌
発行所：香川県教職員連盟
発行者：北村　顕吾

〒760-0004
高松市西宝町２丁目６番４０号
香川県教育会館６０２号

TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723

毎月10日発行　定価１部50円
（年間1,000円　送料とも）
会員の購読費は会費の中に含む

香教連は、結成四十七年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

全日教連訴訟費用保険の御案内

好評の「全日教連訴訟費用保険」ですが、今年度も保険料は三六〇円です。

今回募集する「全日教連訴訟費用保険」は令和三年十月一日から令和四年九月三十日まで有効になります。四月以降に配布予定である申込用紙同封の案内をお読みになり、御検討いただければ幸いです。

なお、現在御加入いただいている方は、申し出がない場合は継続加入となりますので、御注意ください。

よろしくお願いいたします。

お問い合わせは全日教連事務局
〇三―三二六四―三八六一

香教連Facebook

香川県教職員連盟のFacebookがあるのを御存じですか？

香教連や各地域の行事や活動の様子等を掲載しています。

是非一度、御覧ください。

温故知新

新年度がスタートしましたが、新型コロナウイルス感染症の終息の見通しが立たず、学校現場でも対策にまだまだ苦慮されていることと思います。このような状況の中、最も大切なことは、昨年も申しましたが、やはり『命』を守ることです。自分の命、他者の命を守るためにも、「自分は大丈夫。」「大げさにすることではない。」という意識は捨て、「もしかしたら・・・。」の意識を昨年以上に持って行動することが不可欠です。

今後の児童生徒の健康・安全や教育の補償等を守っていくためには、先生方の健康・安全や学校行事の在り方等についても、十分な配慮や精選、変化等が必要です。従来の概念に捉われず、未然に防ぐ対策を継続して決行していく必要があります。「学校行事の短縮等いろいろと感染症対策をしてきたけれど、結局、大したことは起こらなかったじゃないか。これまでやってきた対策は、本当に必要だったのか？」とおっしゃられる方がいるかもしれません。しかし、それは「未然に防ぐための感染症対策をしっかり行ったから、感染が拡大されなかった。」という認識を昨年以上に持っていただきたいと思います。昨今の状況が一刻も早い終息を切に願うとともに、先生方におかれましてもお忙しいことと存じますが、どうぞ御自愛ください。

今回は「気持ちを伝え合う授業に取り組もう」です。「先生にしてもらったことで嬉しかったことは？」回答をグルーピングすると当て字ではありますが、三つの「共かん」にまとめられます。

○「共汗」・・・一緒に遊んでくれたこと
○「共歓」・・・一緒に歓んでくれたこと
○「共感」・・・気持ちを分かってもらえたこと

授業は、子どももっとも長くふれ合うことができる時間です。まさに、「三共かん」のビッグチャンスかもしれません。目があったときに微笑むだけでもいいので伝えるだけでもいいです。子どもとの距離がぐーんと縮まってくるのが実感できるはずです。

「一日一滴（声）言葉のシャワー」を。「がんばれ」ではなく「がんばったね」。「（あなたは）だらしないぞ」（あなた〈ユー〉メッセージ）より、「（わたしは）片付けてくれると嬉しいな」（わたし〈アイ〉メッセージ）。

そんな一言は、大地（子どもの心）に清冽な水（いつも見ているよ）というメッセージ）を浸み込ませます。

授業中の教師の言動（発問、板書する等）を細分して観察すると、例えば「配慮を要する児童に応じた教材を準備する」など、教育相談の姿勢を生かした指導を心がけてしている教師は「気持ちを伝え合う授業」を見事に展開しています。作品やテストの返却等の場面では、努力を認めるコメント添えや言葉かけをされています。

交流分析という心理療法を創始したバーン（Berne，E）は、「人間はストロークなしでは生きていけない。ストロークは、心の食べ物であり、人間はストロークを求めて生きる動物である」と言っています。

ストロークとは、ほめる、励ます、手を握る等の、相手に対する働きかけのことです。先の、言葉のシャワーも一言コメントも、みんなストロークです。誰もがストロークを望んでいます。その気持ちを大切にしながらも、最も必要とする子をしっかり見極めたいですね。（顕）